

証 東京女子医大事件

昨年三月十二日、東京女子医大の循環器小児外科で一歳二カ月の女児が心臓手術を受け、危篤状態に陥った。手術前は元気だった女児は約一カ月後、意識が戻らぬまま死亡した。

当時小学校六年生だった平柳明香さん(当時12)が同科で心臓手術を受け死亡したわずか一週間後の手術だった。

明香さんの手術を担当した東京女子医大の医師二人が逮捕されて一週間。警視庁の捜査幹部の間、警視庁の捜査幹部の間、一人は、「ミス」を犯した人工心肺を取り付ける前に、既に血圧が急落。手術直後の瞳孔の直径は明香さんと同じ七ミリで、脳障害が起きていた疑いが

「何とかなら」と叫ぶ。同種の手術でも病院側が決して明かさない「医療事故の暗部」が、捜査の進展や関係者の証言で、ようやくその一端をのぞかせている。

「何とかなら」と叫ぶ。同種の手術でも病院側が決して明かさない「医療事故の暗部」が、捜査の進展や関係者の証言で、ようやくその一端をのぞかせている。

昨年三月二日午前、東京女子医大循環器小児外科で明香さんの心臓手術が始まった。人工心肺の

医療の「聖域」にメス

心臓手術落ちた名門

「何とかなら」と叫ぶ。同種の手術でも病院側が決して明かさない「医療事故の暗部」が、捜査の進展や関係者の証言で、ようやくその一端をのぞかせている。

直後、圧力異常が発生、血液が逆流した。明香さんの顔面が腫れ上がり、医師らはパニックに陥った。手術室に駆けつけた臨床工学技士が、弁を開いて貯血槽の圧力を下げると、明香さんの脳には血液が流れず、三日後死亡した。

「圧力異常が起こる可能性は認識していたが、具体的などの程度回転数を上げればそうなるのか、教育を受けていながら、体制整備に遅れた」と話す。

実態解明へ逮捕

明香さんの手術を担当した東京女子医大の医師二人が逮捕されて一週間。警視庁の捜査幹部の間、一人は、「ミス」を犯した人工心肺を取り付ける前に、既に血圧が急落。手術直後の瞳孔の直径は明香さんと同じ七ミリで、脳障害が起きていた疑いが



医師逮捕でゆがんだ常識が崩れる(東京都新宿区)

都内のある私立大病院の医局長は「名門の女子医大で、いまだに人工心肺を医師が操作するなんて信じられない」と驚く。日本人工臓器学会が「ミス」を認めなければ犯罪にはならない」という医師のゆがんだ常識はもはや通用しない。